

2004年3月期 第3四半期 業績概要

2004年1月29日
アンリツ株式会社
社長 塩見 昭

(<http://www.anritsu.co.jp/j/ir>)

第3四半期の総括

- 1 .第3四半期業績はほぼ計画どおりに進捗
 - 受注は198億円、前年同期比 +12%
 - 売上は160億円、前年同期比 +4%
- 2 .固定費削減は計画どおりに進捗し、損益を改善
 - 営業利益は 3億円、前年同期より37億円改善
- 3 .通期業績は当初計画どおりの見通し

2004年 3月期 第3四半期業績概要

(1) 損益 (連結)

単位 : 億円 ()は前年同期比増減額 損失

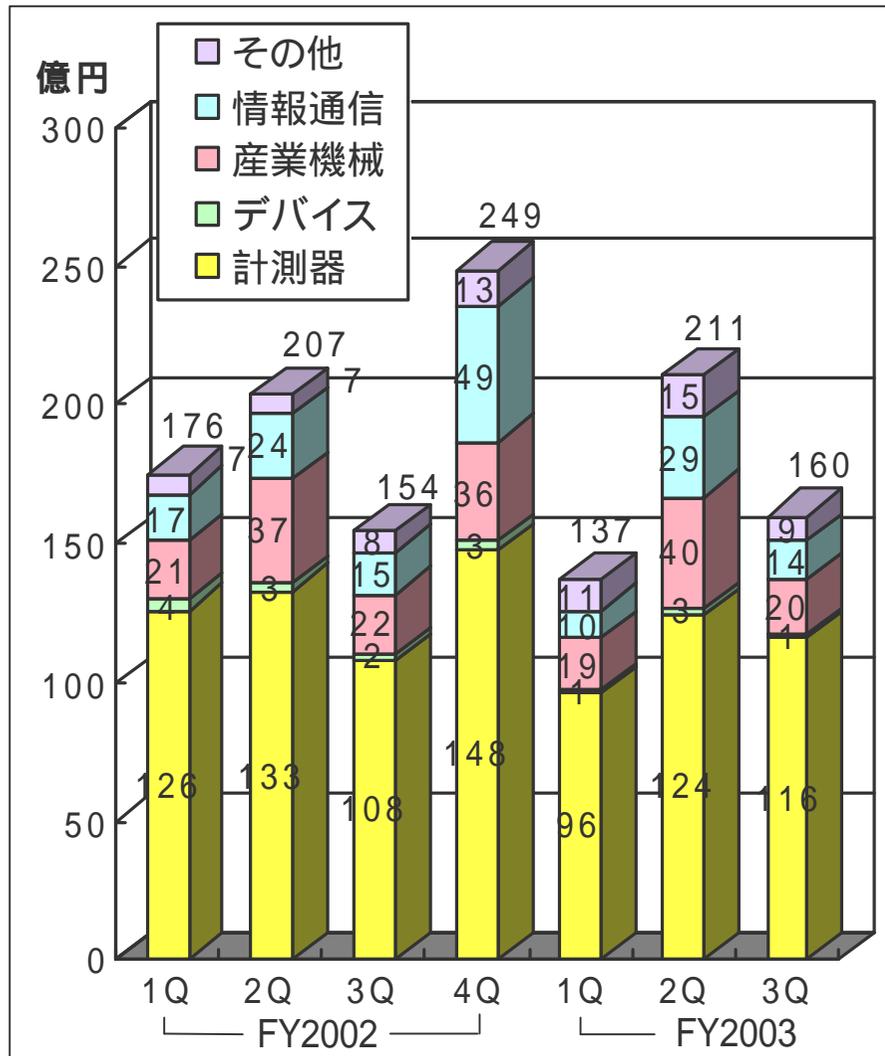
	当第3四半期 (10 ~ 12月)		前第3四半期	
	連結	単独	連結	単独
売上高	160 (+6)	82 (+6)	154	76
営業利益	3 (+37)	6 (+32)	40	38
経常利益	14 (+30)	11 (+27)	44	38
税引前利益	14 (+39)	11 (+34)	53	45
当期利益	14 (+39)	11 (+34)	53	45

(2) 事業セグメント別 (連結)

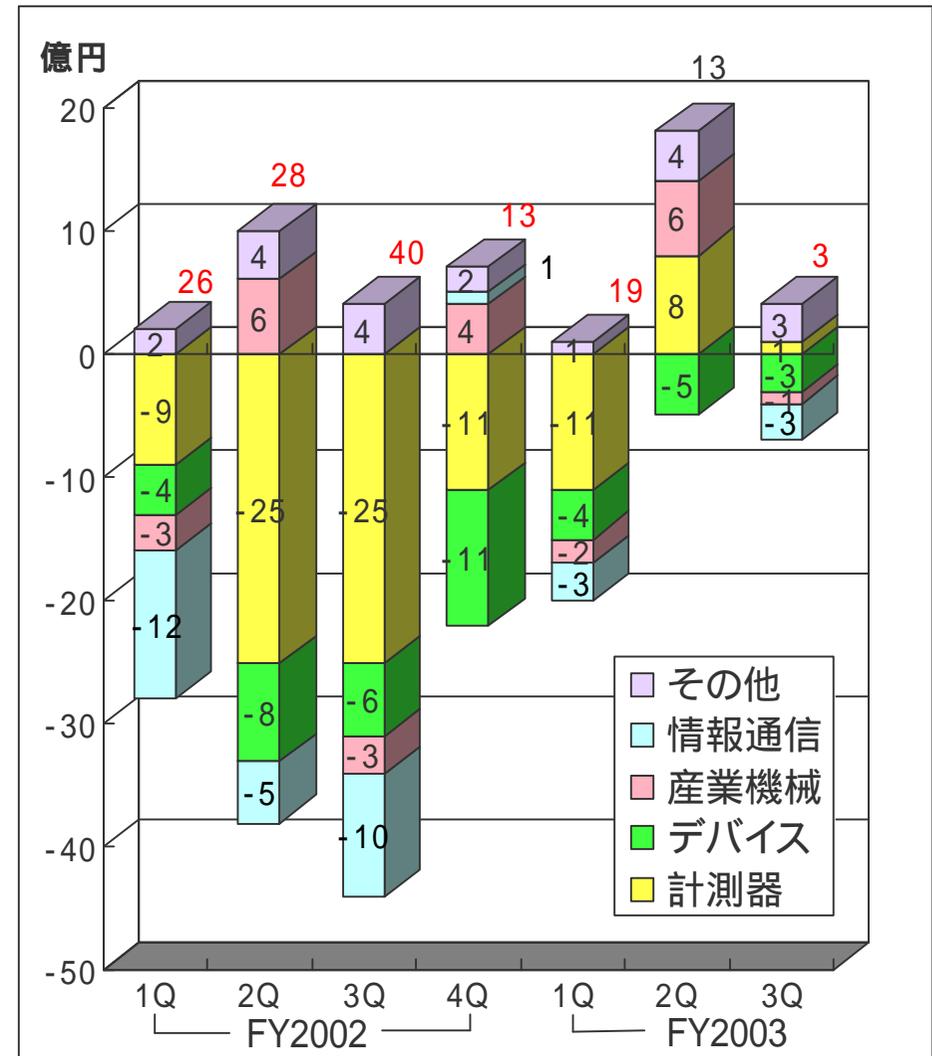
単位 : 億円 ()は前年同期比増減額 損失

	当第3四半期 (10 ~ 12月)		前第3四半期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
計測器	116 (+8)	1 (+26)	108	25
情報通信	14 (-1)	3 (+7)	15	10
産業機械	20 (-2)	1 (+2)	22	3
デバイス	1 (-1)	3 (+3)	2	6
その他	9 (+2)	3 (-1)	7	4
計	160 (+6)	3 (+37)	154	40

事業セグメント別業績 (連結)

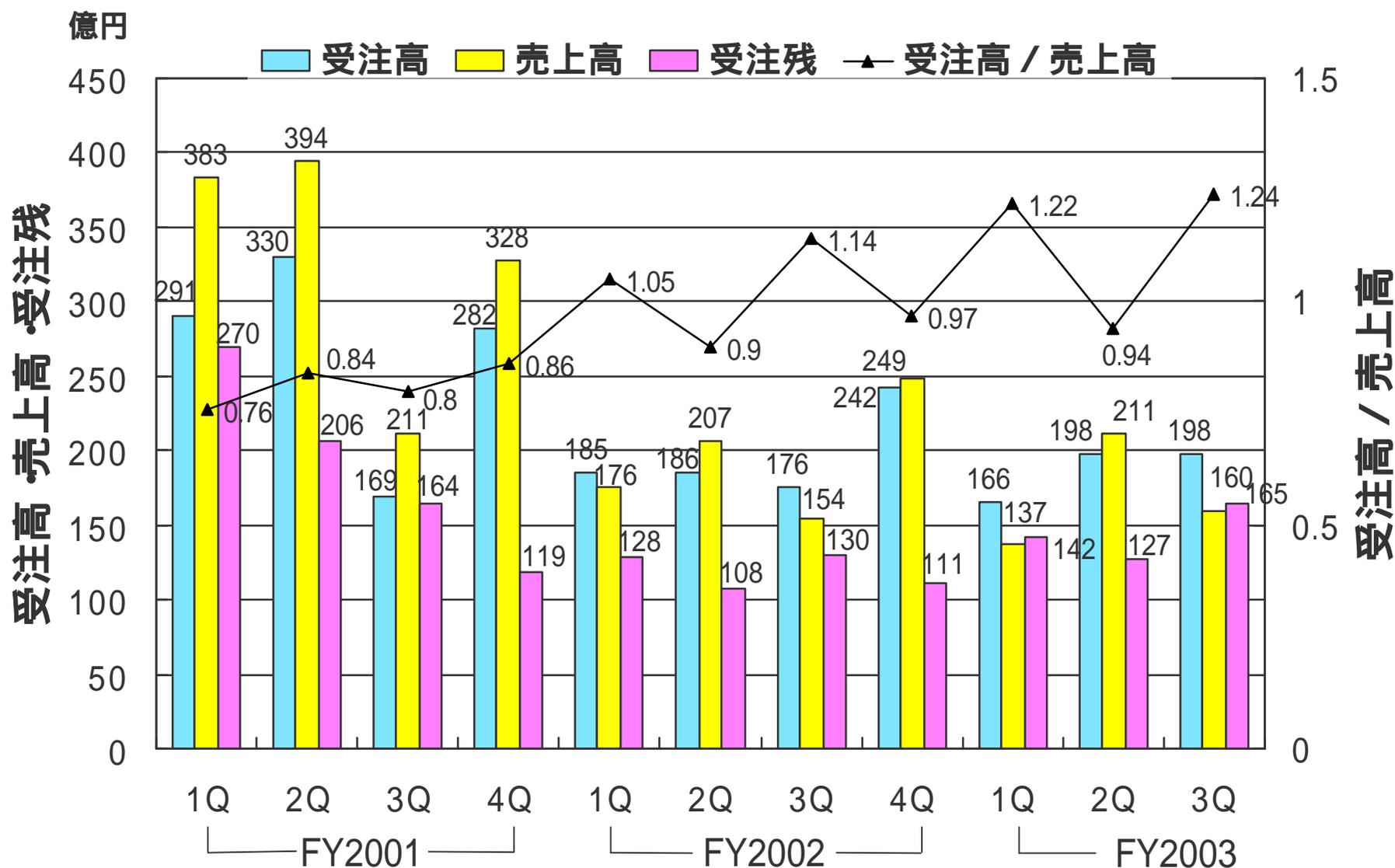


売上高

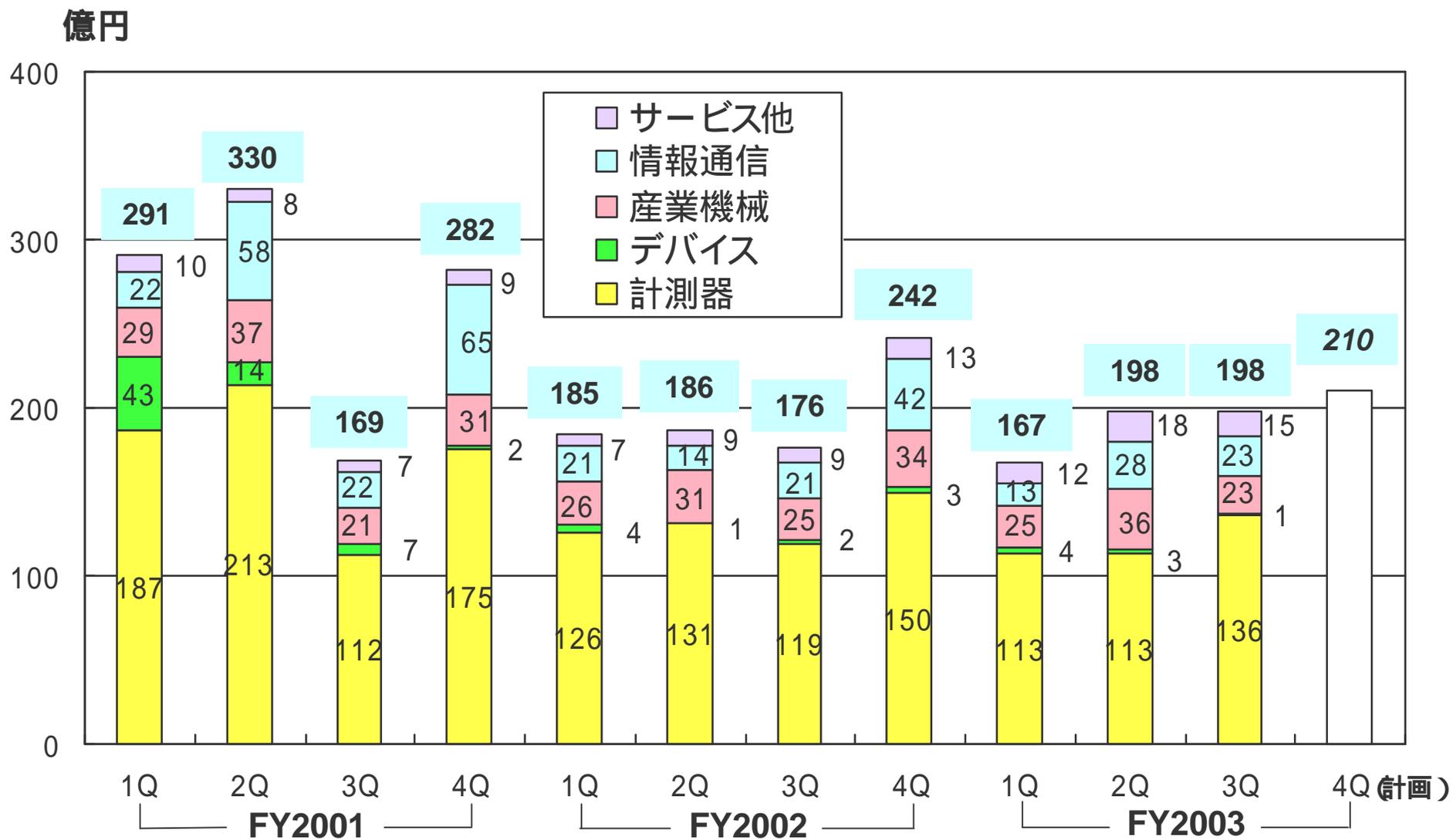


営業利益

受注・売上・受注残推移 (連結)



セグメント別受注推移 (連結)



営業外 特別損益概要 (連結)

単位 :百万円 損失

	当第3四半期 (10 ~ 12月)	前第3四半期
営業利益	318	3,968
金融収支	300	77
棚卸資産廃棄等	342	273
為替差損益	189	64
その他	219	18
営業外損益計	1,050	396
経常利益	1,368	4,364
退職給付関係	-	-
特別退職金	-	-
棚卸資産評価損等	-	61
固定資産売却損益等	-	-
その他	33	833
特別損益計	33	894
税引前損益	1,401	5,258
当期純損益	1,383	5,251

キャッシュフロー計算書 (連結)

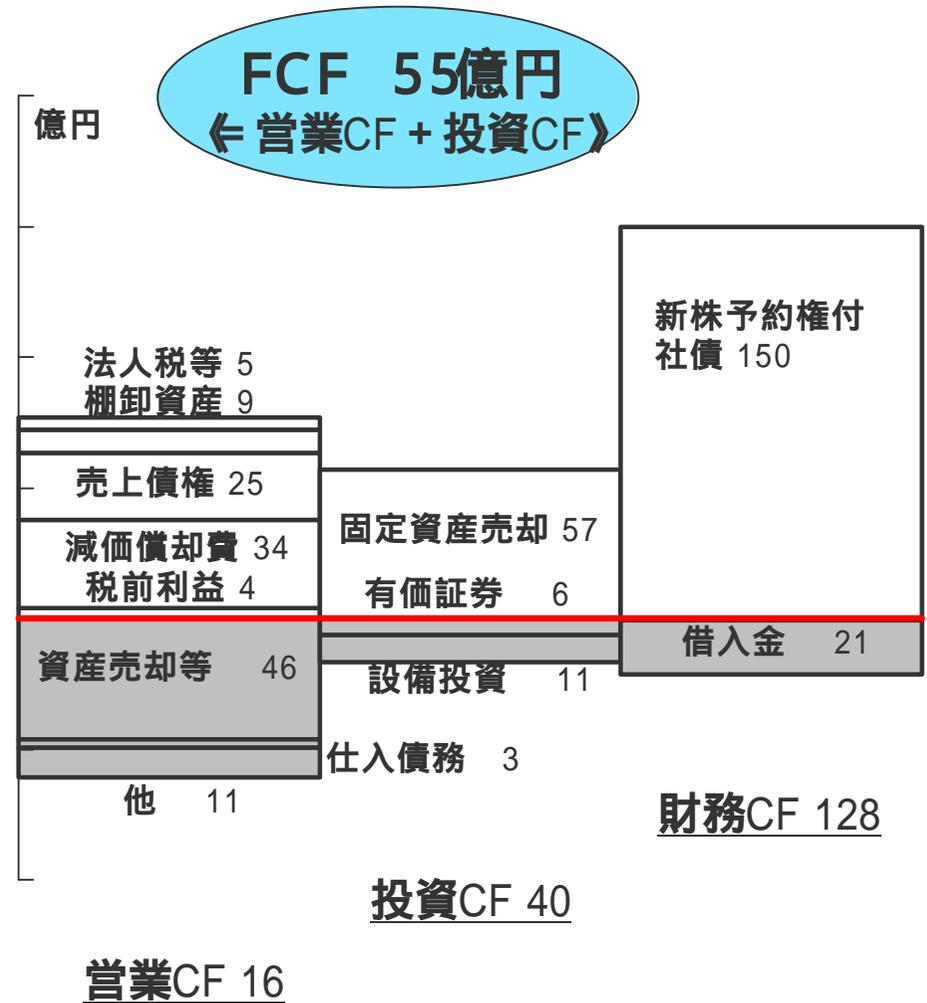
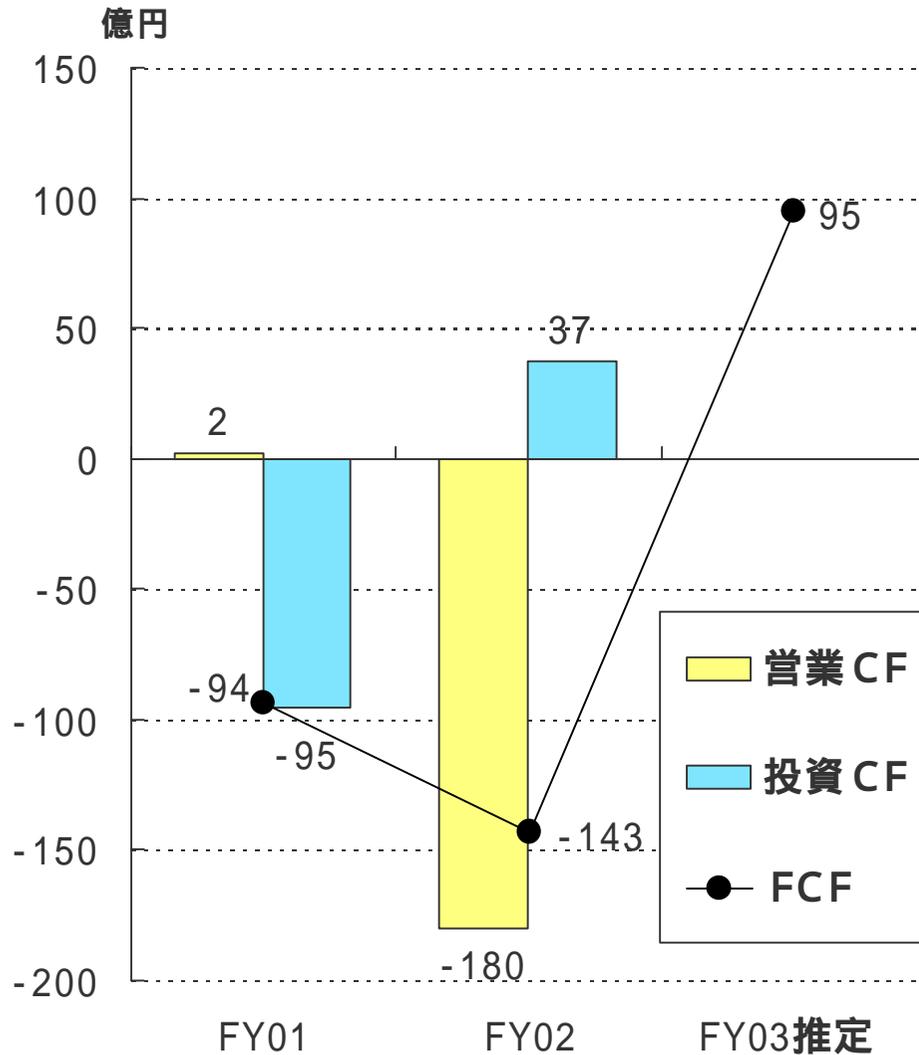
	当年度9ヵ月 (4～12月)	前年度9ヵ月
1. 営業活動によるCF	16	61
税引前利益	4	245
減価償却費	34	45
固定資産等売却損益	46	2
売上債権	25	127
棚卸資産	9	120
仕入債務	3	41
運転資本計	31	206
退職給付費用関連	12	89
法人税等	5	27
2. 投資活動によるCF	40	27
有価証券・投資有価証券	6	20
設備投資	11	22
事業・固定資産売却	57	32
フリーキャッシュフロー(1+2)	55	34
3. 財務活動によるCF	128	169
借入金純増減	21	43
CB・SB発行 (償還)	150	142
配当金の支払	-	4
現預金の期末残高	347	191

単位: 億円
減少

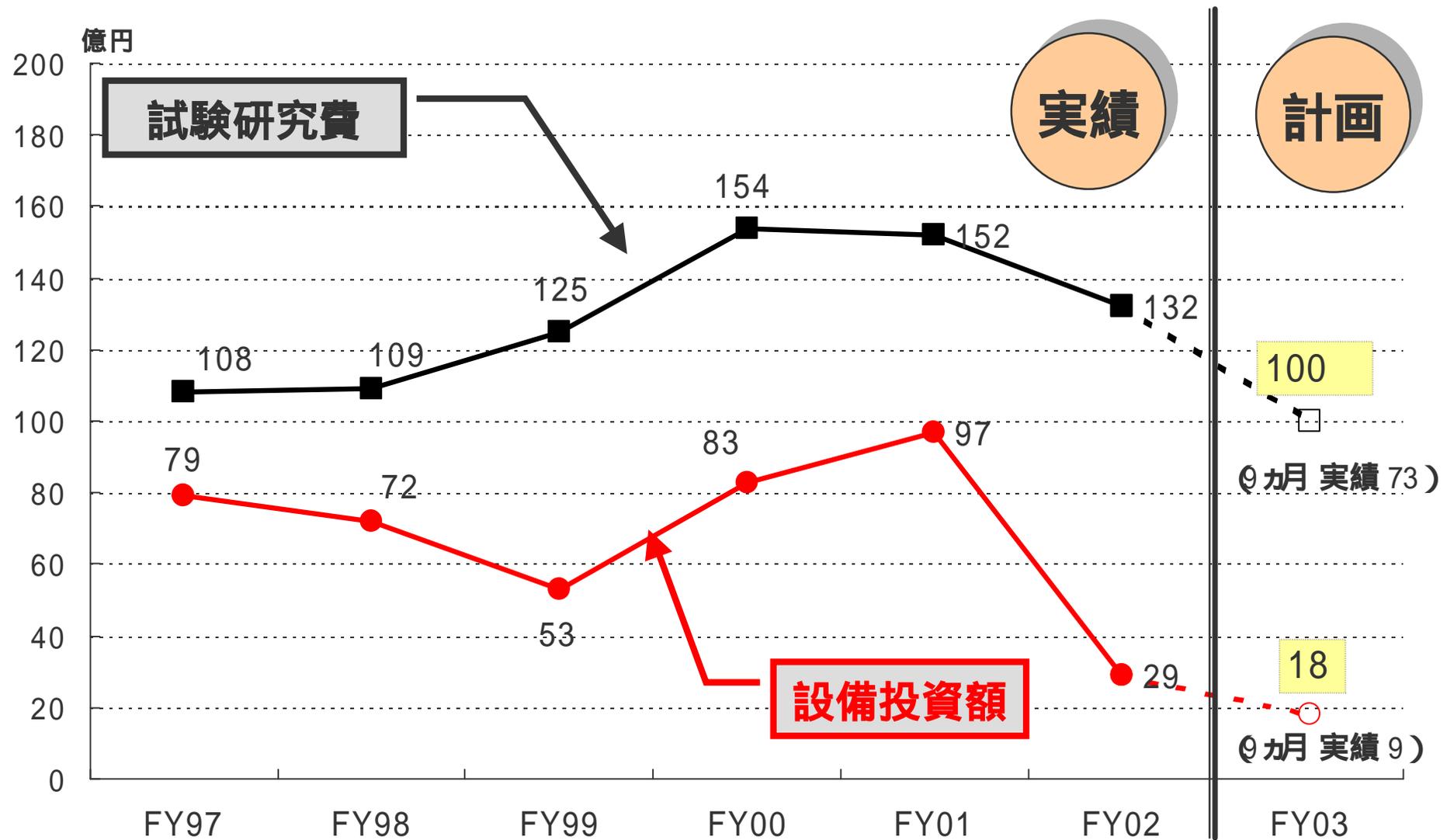
主な項目
のみ表記

キャッシュ・フロー推移 (連結)

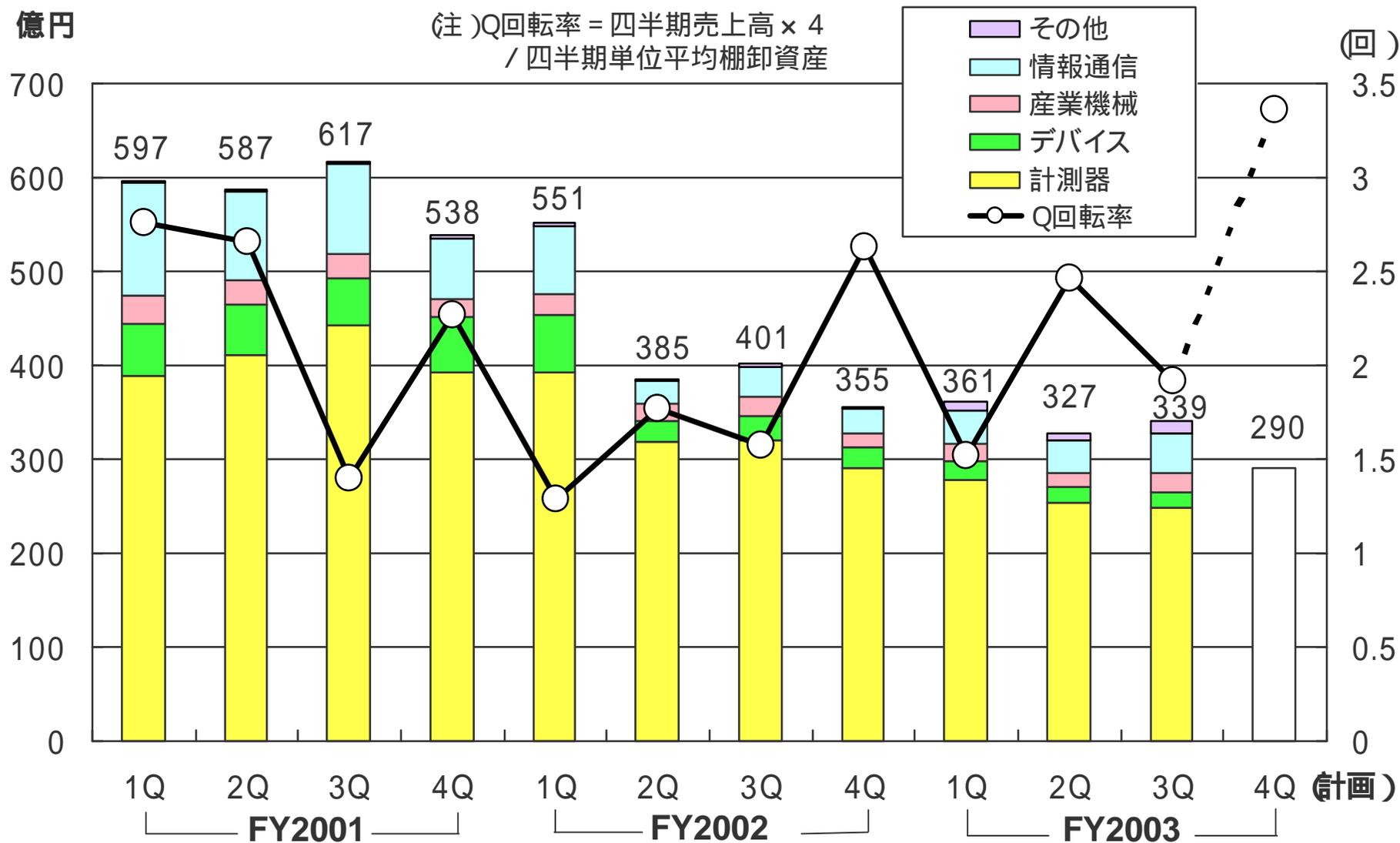
当年度9ヵ月 (4~12月)内訳



設備投資額・試験研究費推移(連結)



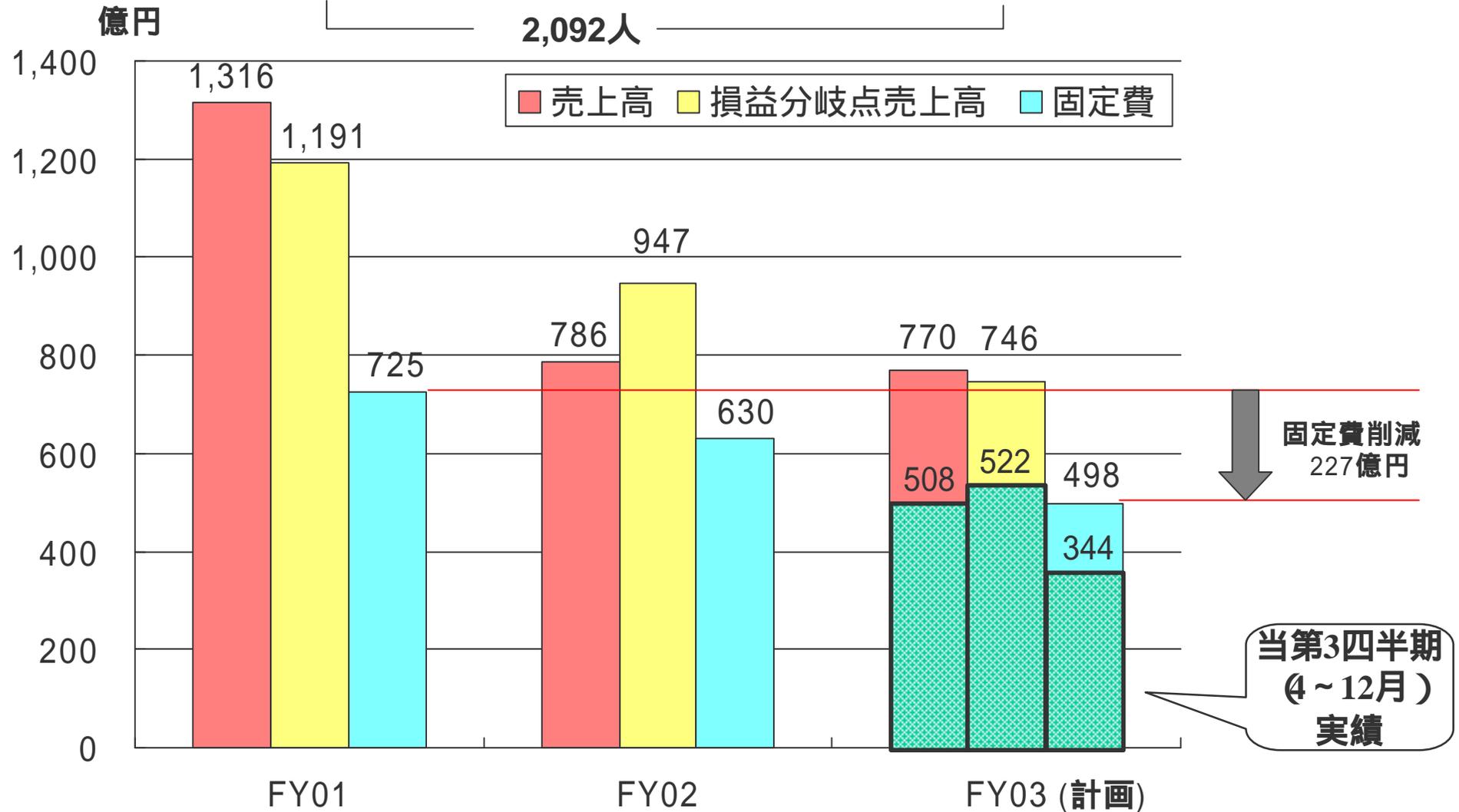
棚卸残高推移 (連結)



費用構造の改善状況 (連結)

(01/9末人員 5710人)

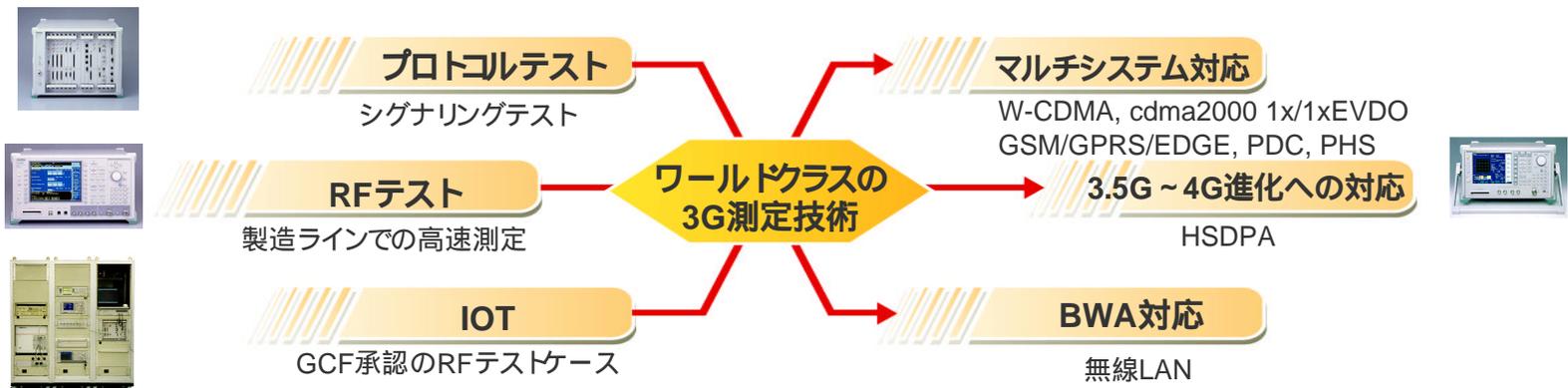
(‘03/12末人員 ;3,618人)



今後の事業展開 (1/3)

1. 携帯電話用測定器事業

- ワールドクラスの3G測定技術で新サービス開発に貢献
 - GCFの承認を得た3GPP端末機相互接続試験システム
 - 中国の第三世代携帯電話の第二次試験で、
電信研究院に協力
 - 3.5世代携帯電話システム (HSDPA)

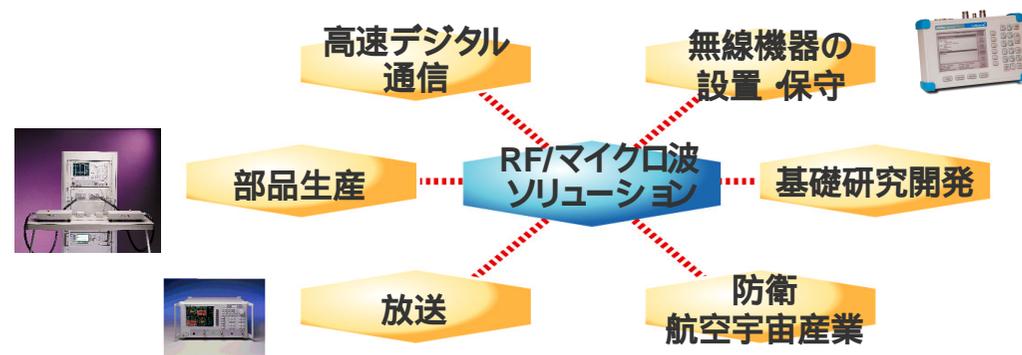


今後の事業展開 (2/3)

- W-CDMAで得た市場での強みを活かし多方面に事業展開
 - UMTS, GSM/GPRS, EDGE, CDMA2000端末機の生産・保守分野、アプリケーションソフト開発分野
 - 基地局建設分野
 - モバイル通信ネットワークのQoS管理分野

2. 汎用測定器事業

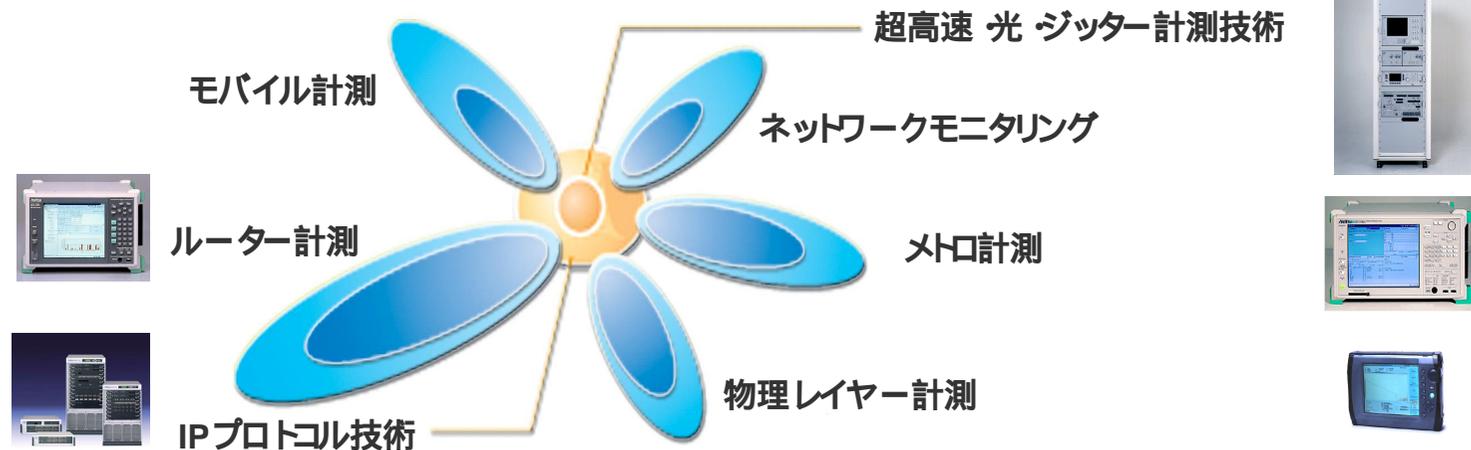
- 革新的な汎用技術をテレコム、その他特定の市場に対応した測定エンジンに応用し、事業展開



今後の事業展開 (3/ 3)

3. IP関連事業

- 通信ネットワークのQoSに焦点を絞り事業を拡大
 - 10G Ethernet, アクセスネットワーク用モジュール, 装置などの開発/生産測定分野
 - EoSネットワークの品質測定分野
 - 高品位な映像ストリーミングをリアルタイムで帯域制御する技術開発
 - 南極での皆既日食のインターネット配信プロジェクト(2003年11月)に試作品 (PureFlow™)を提供



2004年 3月期 年度業績見通し

(1) 損益 (連結)

単位: 億円 ()は前年同期比増減額 損失

	当期見通し				前期実績	
	連結		単独		連結	単独
売上高	770	(-16)	460	(+12)	786	448
営業利益	16	(+123)	0	(+123)	107	123
経常利益	34	(+104)	38	(+97)	138	135
税引前利益	19	(+371)	14	(+311)	352	297
当期利益	10	(+338)	10	(+283)	328	273
FCF	95	(+238)	80	(+261)	143	181

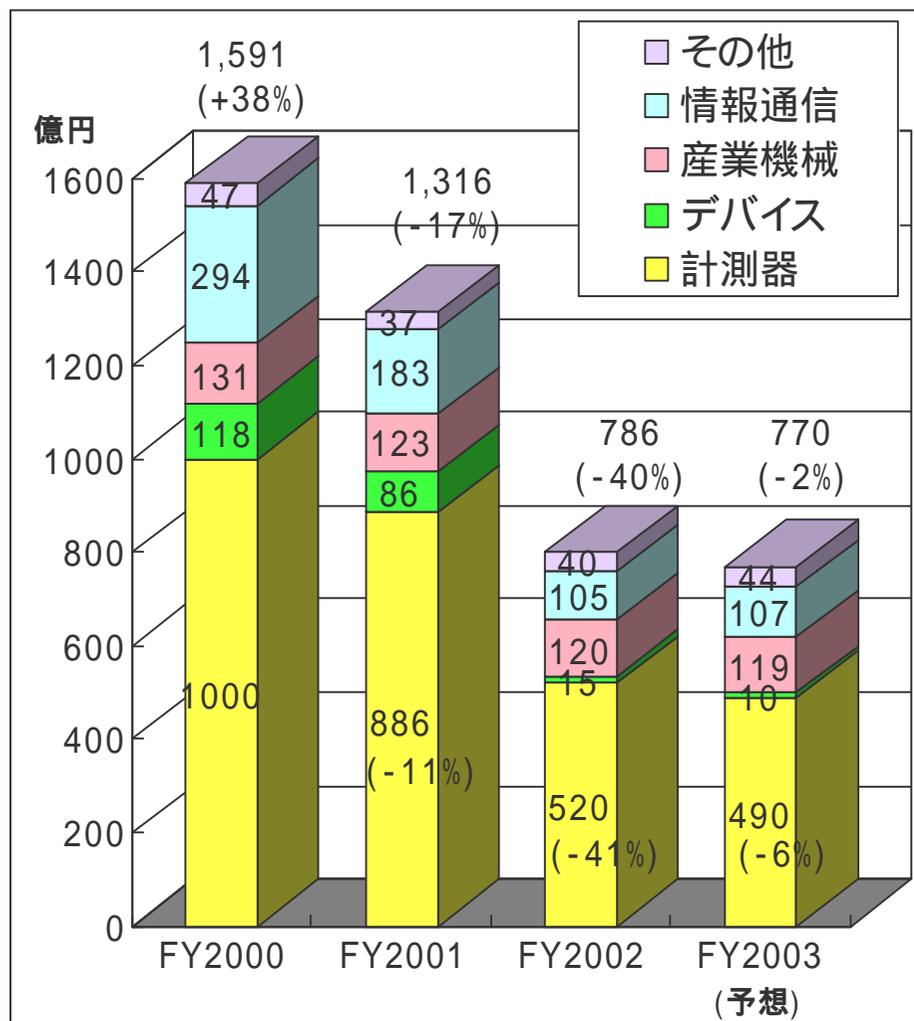
(2) 事業セグメント別 (連結)

単位: 億円 ()は前年同期比増減額 損失

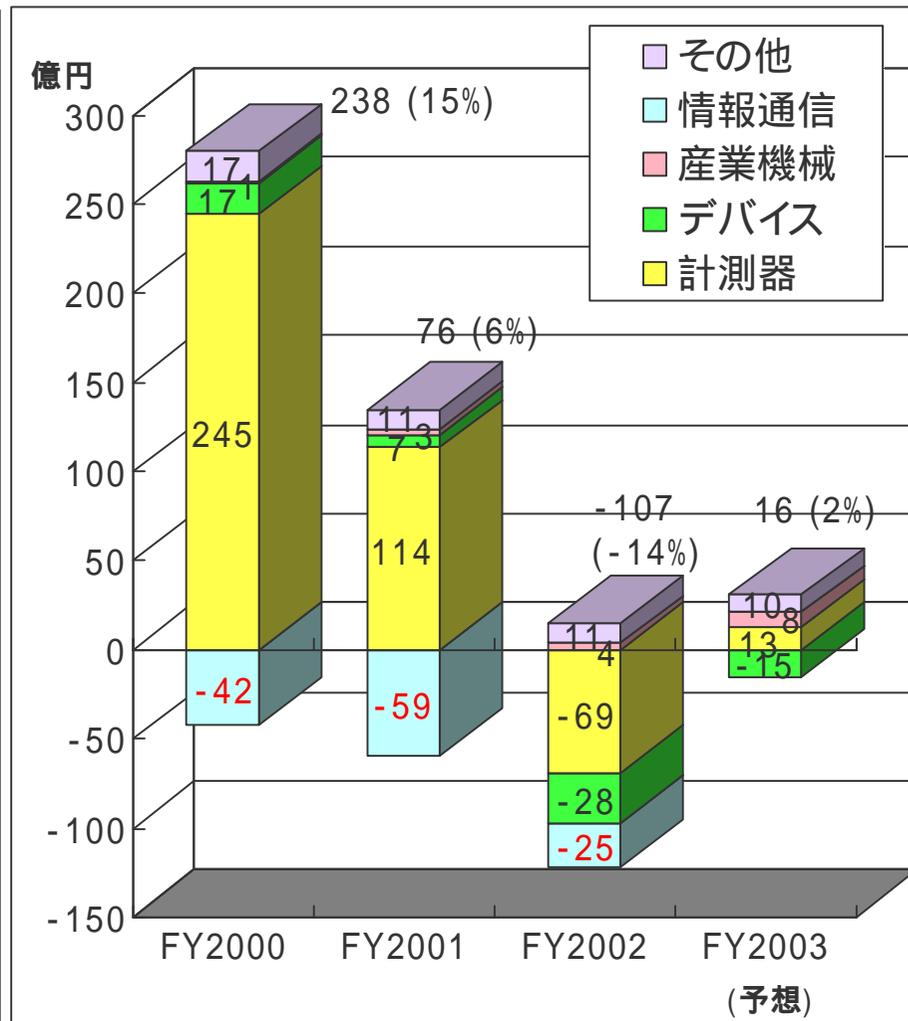
	当期見通し				前期実績	
	売上高		営業利益		売上高	営業利益
計測器	490	(-28)	13	(+82)	518	69
情報通信	107	(+1)	0	(+25)	106	25
産業機械	119	(+3)	8	(+4)	116	4
デバイス	10	(-2)	15	(+13)	12	28
その他	44	(+10)	10	(-1)	34	11
計	770	(-16)	16	(+123)	786	107

(3) 期末配当 1株につき4円50銭の予定

事業セグメント別業績見通し(連結)



売上高 (%) : 前年同期伸率



営業利益 (%) : 営業利益率

注記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。